

文化振興の基本方針検討に向けた課題の整理

施策の柱となる項目	【課題1】嬉野市総合計画後期基本計画より	【課題2】アンケート(ア)/ヒアリングシート(ヒ)より	【必要な取組み】第4回審議会検討
(1) 市民の文化活動の促進に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 多様化し高度化した生涯学習のニーズに対応し、情報提供や環境整備ができる体制づくり (→生涯学習情報の提供とサークル活動の支援体制を確立) 市民が文化芸術への興味を深め、心の潤いを求めるための環境の整備拡充 地域活動の一環としての地域での様々な研修会開催や講師派遣等の出前講座の充実 様々な学習活動をサポートする指導者・ボランティアの育成、確保 	<ul style="list-style-type: none"> 「日頃、継続的な文化・芸術活動を行っている」16.7%、活動分野で最も多いのは「書道・華道・茶道」(ア) 「嬉野市が文化的環境である」と思う市民は56.0% (「非常に文化的だと思う」2.5%、「文化的だと思う」16.9%、「どちらかといえば文化的だと思う」36.6%の合計)(ア) 文化的な環境のイメージ: 3位「文化的なイベントが盛んなこと」28.5%(ア) 興味のある文化・芸術分野: 「映画」38.1%、「ジャズ・ロック・ポップス・演歌・歌謡曲・民族音楽」32.8%、「絵画、彫刻、現代アート、写真」30.4%、「陶芸・工芸」30.2%、「陶芸、工芸」23.3%、「クラシック音楽」21.4%、「書道・華道・茶道」21.1%、「演劇・ミュージカル・人形劇」19.9%など(ア) 年間を通じて、いつ、どこで、どのようなイベントが行われているかということをも市民に訴える工夫、PRが大切(ヒ)(ア自由意見) 参加する人たちを一人でも多く増やすよう働きかけることが大事(ヒ) 地域コミュニティと文化団体との連携不足(ヒ) 文化団体などの会員の高齢化などにより、十分な活動がなされていない、文化祭時の準備、設営が難しい。そのため、作品が少なくなっている(ヒ) 	
(2) 本市独自の文化活動と伝統文化・歴史遺産の継承・発展、後継者の育成に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 市民がふるさとの歴史や文化のすばらしさを再発見、再認識することで地域を発展させ、価値ある歴史文化を後世に伝えることが可能になる 文化連盟による芸術文化活動支援の充実 文化活動団体の後継者育成への支援 文化財は、地域の人々の心のよりどころとして生活の中に生き続けているという観点から、一般文化財や伝統芸能の保存・活用・啓蒙に努める (→歴史文化への理解と文化財保護の意識高揚をめざし、歴史や文化財に関する講座や見学会実施、広報紙配布) 市内文化財等の保存継承のための後継者育成・確保 	<ul style="list-style-type: none"> 文化的な環境のイメージ: 1位「地域に伝わる伝統芸能・郷土芸能などが大切に継承されていること」が40.2%、2位「古い建物、伝統工芸などが大切に継承されていること」33.2%(ア) 市の文化・芸術活動を活発にするために必要なこと: 3位「地域に伝わる伝統芸能・郷土芸能などを記録保存し後継者を育成」30.4%(ア)、5位「古い建物や伝統工芸など文化資源を継承・保存する」24.9%(ア) 小中学生が文化が盛んな町になるために大切だと思うこと: 「歴史のある古い建物や街並みを保存してきれいにすること」が54.7%で最多(ア) 市民が文化財を知ることが大切。市民の啓発・発信が必要(ア自由意見) 市民、小中学生の市内文化財の認知度が低い傾向(ア) 市内の文化財等についての案内や現地説明板等が十分ではない(ヒ) 嬉野市の文化遺産、歴史的な経緯などを明確にする(ヒ) 文化財のマップづくり(観光客の案内にも利用)(ヒ) 文化団体などは様々な活動をしているが資金は十分ではない(ヒ) 	
(3) 地域、学校における子どもたちの文化活動や学びの場の充実に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人ひとりが意欲をもって主体的に学ぶことができる学習環境の整備 地域の体験授業を積極的に行う 生涯学習講座、放課後子ども教室の充実 子ども文化祭の拡充 青少年の地域活動、体験事業活動への支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 市の文化・芸術活動を活発にするために必要なこと: 4位「文化・芸術活動を通じて子どもたちを育む環境を整える」28.8%(ア) 小中学校で自分が住んでいる町にどんな文化財があるかを教える必要があると思う。(ア自由意見) 子どもたちの興味は身近なものからはじまる。地元の歴史の読み聞かせなど子どもを対象とする活動に力をいれてもらいたい(ヒ) 地域の郷土芸能を大人と子どもたちが一緒に見て、伝えないといけない(ヒ) 親が自ら芸術文化にふれていないと、子どもを連れて行かない。学校も一緒になって、劇やコンサートを市内で鑑賞できるようにしないと子どもたちには伝わらない(ヒ) 地域の人たちと子どもと一緒に活動することで、自分たちの町の歴史や文化を伝えていける(ヒ) 	
(4) 新しい文化芸術の創造に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 嬉野市文化振興基本計画を策定し、長期的な視点で嬉野市の文化、芸術の振興に努める 市民だけでなく観光客も呼びこむことができる文化芸術イベントの開催 	<ul style="list-style-type: none"> 伝統文化を残す方向に力を入れすぎて、新しいモノを模索する意欲に欠けている(ア自由意見) 昔のままではマンネリ化して楽しさがないように感じ若者の関心もなくなってしまう(ア自由意見) マンネリ感があり毎年同じよう面白くない(ア自由意見) もっと若者が参加できる形の物を取り入れてほしい(ア自由意見) イベントなど他の文化団体との連携が必要(ヒ) 	

施策の柱となる項目	【課題1】嬉野市総合計画後期基本計画より	【課題2】アンケート(ア)/ヒアリングシート(ヒ)より	【必要な取組み】第4回審議会検討
(5)文化施設の整備・管理運営・事業の充実に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 市内施設を活用した優れた芸術文化鑑賞機会の充実や各種文化事業の向上 (→市民参加事業の企画実施など、社会文化会館の利活用を働きかける) (→社会文化会館や公会堂などの文化施設を活用した本格的市民芸術活動の実施や短歌大会、川柳大会等の文化活動の充実) 地域交流拠点となる自治公民館での活動支援並びに利便性と安全性を充実させた施設整備への支援が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の参加意向「一流の文化・芸術公演の鑑賞」31.7%が最も多い(ア) 文化的な環境のイメージ:5位「文化芸術施設が充実していること」23.3%(ア) 市の文化・芸術活動を活発にするために必要なこと:2位「質の高い文化・芸術を鑑賞・体験する機会を充実させる」32.3%(ア) コンサートやコーラスなど音楽が楽しめる施設が欲しい(ア自由意見) 映画施設がない。CDショップなど音楽関連の店舗がない(ア自由意見) 市民が楽しく感動を共有できるイベント施設の建設(ア自由意見) 高齢者で 足が無く、見に行けない人への配慮がほしい(送迎シャトルバス、定期的な巡回バスなど)。(ア自由意見) 嬉野市社会文化会館で年間に何が行われているのかよくわからない(ア自由意見) 練習ができる施設が充実していないうえに、その使用料が高い(ア自由意見) 活動にあった施設、体験者を受け入れるための施設が不備(ヒ) 	
(6)文化活動を通じた観光、交流機会の充実に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 観光客も含めた市内外の多くの人への情報発信 市民だけでなく観光客も呼びこむことができる文化芸術イベントの開催(再掲) 市の産業の情報発信力を高めて交流の拡大を図る (→うれしの茶の歴史を市民や観光客に広めるための資料館を建設するなど) 	<ul style="list-style-type: none"> 市の文化・芸術活動を活発にするために必要なこと:1位「四季折々の観光イベントを充実させる」35.3%(ア) 小中学生が文化が盛んな町になるために大切だと思うこと:「市民が中心になって観光客や外国人と交流するイベントを行うこと」が48.6%で2番目に多い(ア) 文化的な環境のイメージ:4位「自然やみどりにふれる機会が多いこと」23.5%(ア) 温泉以外で観光客が過ごせる仕組みが少ない(ア) 観光客が見学できる美術館、歴史資料館、文化的施設の充実したパンフレットが必要(ア) 市民が気軽に参加、協力・交流できる企画運営の発信(ア) 障害者でも気軽に参加できる催しもの、気軽に参加できる環境の増加(ア) 子どもから高齢者まで幅広い層が参加しやすい文化活動(ア) 市民がもっと気軽に利用できるような市民料金や平日開催などを検討してほしい(ア) お茶の資料館建設など。観光客にも魅力ある内容(展示体験)で充実させてほしい(ヒ) 	
(7)産業・教育・福祉など各分野と連携したまちづくりの取組みと発信に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 塩田地区、嬉野地区で実施されている文化祭の統合 地域コミュニティとの連携による生涯学習振興 産、学、官協働によるうれしの茶、畜産、いちご、大豆などの商品開発を進め、嬉野産ブランド力の向上 生産団体や販売業者等の連携した各種イベントの開催 地産地消など食文化に関する教育と農業体験学習を一体的に実施 市民と観光客が集うにぎわいの場の再生と創造 (→事業者との協働のもと、嬉野温泉駅周辺整備事業や、塩田津の歴史的町並み整備を行い、商業地の環境・景観整備を進める) (→独自のサービスや商業イベントの支援で賑わいの創出に努める) 	<ul style="list-style-type: none"> まち(特に商店街)の活性化(ア) 商店街の空き店舗対策(塩田の旧市街地や大分の若者向けトライアルショップ、県内外への利用者募集など工夫する取組みがあればよい)(ア) うまくアピールすれば県外からも人が呼べる(旅館組合と連携で文化事業と温泉を楽しめるなど)(ア) アピールの仕方が下手。素晴らしい文化観光資源がありながら発信力にかけている(ア) 嬉野の魅力が海外や他県に発信できるスタッフの育成が必要(ア) 文化を説明(観光含む)する人の養成(ヒ) 文化芸術の鑑賞や活動も必要だが、もっと武雄市のような魅力的な街づくりが必要だと思う(嬉野温泉を絡めた施策など)(ア) 市内でも旧嬉野町と旧塩田町ではお互いの活動をよく知らない。各地区の地域コミュニティ活動と連携が必要(ヒ) 食文化を伝えていきたい(ヒ) 日本の家ですごしたいという外国人観光客も増えている(ヒ) 	

市が催し物を行うことでどのようなまちになってほしいか:

「身近な催し物への参加を通じて、子どもや高齢者、住民同士や訪れる人との心が通うい合う関係の住みよいまち」が55.4%で最多(ア)

各施策に共通する視点(案)

- ①自主的な文化活動やまちづくりにつながる取組みを促進する
- ②独自の文化活動や文化的資源の観光やまちづくりに活用していく
- ③地域間、各分野、各団体の連携を促進する
- ④積極的、効果的な情報発信
- ⑤文化芸術やまちづくりの担い手など人材の育成